

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(6月)

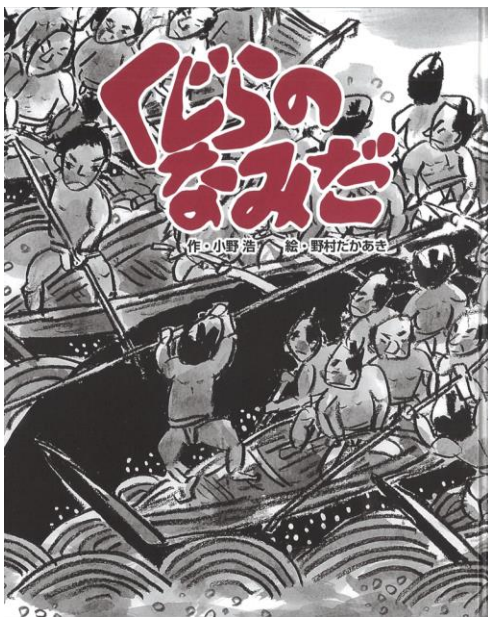
<ご紹介者>

矢祭町長 佐川 正一郎
矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



『くじらのなみだ』

作：小野 浩 / 絵：野村 たかあき / でくの房



素晴らしい絵本と出会いました。
作者はいわき市で江戸の古式捕鯨研究家の小野浩さんです。

江戸時代後期ごろから鯨は、我々人間が生きる為の大切な資源でした。特に欧米では、鯨の油を燃料とし、食糧にはしていませんでした。

日本でも各地で捕鯨が盛んに行われ、国のプロジェクトでした。

この物語は子鯨に“もり”打った少年と母鯨の対話が胸を打ちます。そこには、生と死があり、私たちは日々、命をいただいて生きています。

必読の一冊です。子ども達にすすめて下さい。

内容のご紹介

福島県いわき市のむかしのおはなしです。海辺の小さな村に「鯨をとってよい」と殿様からゆるしがでましたが、鯨の漁は命がけ。村の子ども達は「もり打ち」にあこがれていた。又吉も父のような、すごい「もり打ち」になりたいと思っていました。でも、又吉の父は鯨捕りの最中に仲間を助けようとして亡くなりました。「鯨がきたぞ！」まちにまった鯨がきました。親子の鯨です。村人たちの声援を受けて又吉たちは漁に出ました。鯨一頭で村は2～3か月暮らしていけますから、みんな命がけの漁が始まりました。はじめて子鯨に「もり」を打ち込んだ又吉.... 子鯨を捕まえられた母鯨の悲しみ.... 人間と鯨の親子の絆の感動のお話です。作者小野浩さん(いわき市在住)の自費出版の絵本をご紹介しました。(矢祭もったいない図書館)